

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2022年7月20日
住所 〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町5-3 ☎03-3959-1675(陽光会本部)
社会福祉法人陽光会 HP <http://youkou-kai.com>

97号

保育園では、毎日絵本や紙芝居の読み聞かせを行っています。子どもの年齢や様子、季節によって担任が選んだり子どもが選んだりいろいろですが、子どもたち大勢で見るときにはみんな一緒に笑い合ったり楽しいひと時となっています。そのなかでも何年も何回も読み継がれている絵本があります。ロシアのお話『おおきなかぶ』はみんなで力を合わせて大きくなったかぶを引き抜く内容、ウクライナのお話『てぶくろ』は、雪の降るなか落とされていた手袋の中へ動物たちが次々と「いいよ」と快く招き入れ、仲良く過ごす内容で、どちらも心温まるお話です。今のロシアとウクライナが一日も早く平和的な解決ができるよう願っています。私たち大人ができること、子どもたちに平和な未来を残していけるよう、思いを寄せて進んでいきましょう。(M・S)

続 子どもの世界

～板十小あいキッズ～

2 年生 — 「なるほどね」

コマを回せる子が、最近は少し減りました。無理ありません。しばらくできなかったからです。でも、上手な子や職員の真似をして、教わって、初めて回すことができた男の子が、開口一番「なるほどね」。なんだか笑ってしまいました。

1 年生 — 同じ色？ それとも違う色？

1年生の歓迎会で、お土産にマジックスクリーンをもらった子どもたち。「私はクマさん!」、「僕も!」と見せてくれました。「あら、同じ色にしたのね」と言うと、2人そろって「違うよ!よく見て!」。確かに茶色と……、こげ茶色かしら?

全 学年 — 勲章は絆創膏

うんてい、鉄棒、のぼり棒などの固定遊具は、どの学年にも人気です。どの子も手にたくさんまめをつくって、「つぶれた!」と言っては絆創膏をもらいにきます。女の子も男の子も。遅いですがね。子どもたちの手には練習を頑張った勲章が毎日つくられます。



こいのぼりを作りはじめたころ、5歳児クラスみんなで記念撮影。コロナ禍で登園がままならないときに、やっぱり全員そろろうとうれしいね

このクラスの子どもたちは、小さいころから「楽しいこと」を見つけてる才能を抜群にもってました。年長クラス(かもしか組)になり、子どもたちから教わったことがあります。それは、楽しい行事などは、二度楽しむことができますということ。当日は当然のこと

9月になり、「大きくなったね会」の話をいつしようかと考えていたところ、「竹馬やるの怖いな」と言っていたうちの子ども一人が、「竹馬いつやるの?」と聞いてきました。不安そうにしていたのに、「大きくなったね会」が楽しみにしていたのに、「大丈夫だよ」と思っていた、竹馬の練習をスタートさせました。子どもの言葉に背中を押され、私も気持ち

「楽しい」を見つけ、つくりだす

今年3月、卒園した子どもたち。私とその子どもたちと出会ったのは、6年前の4月でした。新卒で保育士になったばかりの私は、子どもが泣くたびに緊張していたのを覚えています。その後、希望がかなって0歳児から5歳児まで担任としてその子どもたちのクラスを受け持ちました。6年間ともに生活してきた子どもたちとの最後の1年間を振り返り、感じたこと、思ったことを書かせていただきます。

話し合いました。「大きくなったね会」とは、これまでの「運動会」の名称を変更し、保育参観を兼ねた催しにしたものです。子どもたちから第一に挙がったのは「竹馬をやりたい!」という声でした。自信たっぷりで、新しいことへの挑戦を楽しみにしていることが目に見えてわかりました。一方で、「竹馬怖いな」「できるかな」と不安を口にした子も数名いました。

そして、準備も楽しい。それを子どもたちから教わりました。担任としても「楽しい」を求めて子どもたちと話し合い、みんなで行事をつくっていきたくて思っていた矢先、コロナの影響でお休みをする子が増え、なかなか全員そろって話し合う機会をもてませんでした。それでも夏になる少し前、子どもたちと



ともに育った6年間

子どもたちから学び、子どもたちに支えられて



6月の「お楽しみ会」では、かもしか組のみんなで「キャンプだホイ」を踊りました。コロナ禍によりお泊まり保育が中止になって2年。代わりに「お楽しみ会」と称している遊びを楽しみました

コロナ禍のなかでの交流

コロナ禍により他のクラスとの交流ができないことで、担任として孤独を感じることもありました。かもしか組がホールで歌ったりリズムをしていると、砂場のほうから一緒に歌う声が聞こえたり、ホールに顔をのぞかせ、「なにしているの?」と興味をもってくれる他クラスの担任や子どもたちもいました。かもしか組の「楽しい」が他のクラスにも広がっているのを感じました。

大人も子どももみんなで育ち合う

卒園前に予定していた保護者懇談会が、コロナで休園になったため中止になりました。それを受けて保護者の方から「少しでもいいからみんなと話したい」という声をいただいたため、急きょ「お話し会」としてZoomでの懇談会を実施しました。保

保護者より★★

娘の初めての小学校での運動会。開催されるか心配したけれど、好天の下、元気いっぱいの子どもの運動会が始まった。1年生約100人のなかに8人の陽光の子がいて、徒競走ではみんな大活躍。陽光の子は元気いっぱい、足の速い子が多かった。娘も1等賞を獲ってうれしそう。友だちと仲良く並んで一緒にゴールする子もいた。残念ながら2位でゴールした子は一瞬だけ悔しそうな表情をしたあとに1位の友だちを満面の笑顔で称えながら肩を組んでじゃれあっていた。陽光の子の笑顔は、保育園時代の根っこから。感謝。(相良 聡)

お知らせ
これまで地域のみなさまにご愛顧いただいていた年2回のバザーが、コロナ禍によりこの2年以上実施できていません。代わりに財政活動として、園内でTシャツやお菓子の販売をし、施設設備費に充当しています。外部販売には至らず申し訳ないのですが、ご了承ください。

お知らせ
（陽光保育園保育士 高橋未来）
卒園式後の3月でした。

ごあんない
●陽光保育園 大きくなったね会 10月8日(土)
●北町保育園 運動会 10月22日(土)
●桜台第二保育園 運動会 10月22日(土)
●板十小あいキッズ 夏の終わりのミニコンサート 8月30日(火) 工作・あそびフェスティバル 10月12日(水)
*ウイルスコロナが言われる昨今ですが、また感染拡大が起きています。各行事にお客さまをおよびできるかどうかは今後の推移によりしますので、ご了承ください。
*後援会の今年度の行事等は未定です。

★★保護者から
「明日遠足で小学校のみんなと城北公園に行くの」当時小学校1年生になったお姉ちゃんが放った言葉に、妻と顔を見合わせました。そして衝撃の一言が続く。「電車に乗って行くんだ」。陽光園児の散歩コースが、小学生になると電車に乗って行く遠足に。当たり前だと思っていた日常は、違う環境では、遠足という非日常だったのです。そんなお姉ちゃんも4年生。6年間お世話になった妹も2年生になり、2人とも小学校生活皆勤賞。そんな健康基盤は、間違いなく陽光保育園で培われました。強烈なおいの運動靴も、今では良い思い出です。(刑部秀章)

★一時保育
●月々金曜日の9時～17時(土・日・祝日) 17時～8時(土・日・祝日) 18時～21時(土・日・祝日) 1歳以上で、離乳の完了しているお子さん(板橋区発行「すくすくカード」をご利用できます)。
●保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護などのほか、出産・冠婚葬祭などの緊急時や子育て不安、リフレックスなどでもご利用できます。
●緊急時以外は、なるべく10日前までにお申し込みください。事前に面接をして、利用日・利用時間を予約していただきます。
●詳しくは陽光保育園までお問い合わせください。(受付時間10～17時) ☎03-3956-1068

親子でいっしょにあそびましょう

●陽光保育園●
2022年度も「砂場遊び」や「リズム遊び」などを中心に公園ではできない遊びを計画しています。親子で気軽に遊びにきてください。無料です。
○ただし、新型コロナウイルス感染状況により、延期や中止、受け入れ人数を制限することもあります。
○参加ご希望の方は、実施予定日の3日前までにお電話ください。
場所 陽光保育園(板橋区大谷口上町23-1) ☎3956-1068
時間 午前9時30分～11時(赤ちゃんは10時30分まで)
対象 0歳児～就学前のお子さんと保護者
*動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。
*受け入れ時、検温と手指消毒を実施しています。発熱や咳などの風邪症状がある方は参加をご遠慮ください。
*天候によっても内容を変更することがあります。
*0歳のお子さんは、室内にて、赤ちゃん体操・あやし遊びなどでゆったり過ごします。

2022年度◆年間予定

7月は終了しました	8月16日(火)	9月20日(火)
10月18日(火)	11月15日(火)	12月20日(火)
1月17日(火)	2月21日(火)	3月7日(火)

*9月は看護師が「健康」の相談をうけ、11月は栄養士が「食」の相談をうける予定です。

子どもの言葉に気づかされたこと

PART 3

拡大版6

● 陽光保育園 ●

大好きな看護師との再会

病休を取得していた看護師が2カ月ぶりに保育園に戻ってきました。看護師のことが大好きだった5歳のHちゃんは再会すると抱きついて喜び、うれし泣きしていました。看護師がHちゃんに「元気にしてた？」と聞くと、「山ちゃん(代替看護師)と仲良くして、玉ちゃん(帰ってきた看護師)のこと待ってたよ」と答えていました。玉ちゃんが休んでいる間、代替看護師山ちゃんが園を守ってくれていたことで、Hちゃんは山ちゃんとも仲良くなっていました。でもやっぱり玉ちゃんに会えて安心したのでしょね。大好きな人としばらく会えない寂しさも、再会した喜びも感じる事ができる子どもの繊細な心に気づかされました。



5月末に片付けの準備はほぼ完了。6月1日に復旧した玉ちゃんもお祝いした。お祝いした玉ちゃんもお祝いした。お祝いした玉ちゃんもお祝いした。

● 桜台第一保育園 ●

日々成長する子どもたち

2歳児クラスの片付けの時間の出来事です。子どもたちに声をかけると、「まだ遊びたい」とブロック遊びを続けるAちゃんとBちゃん。すると突然Cちゃんがやってきてブロックを崩してしまいました。そのとき私は、Cちゃんが仲良く遊んでいる2人に「お友だちがまた遊んでいるよ」とCちゃんに伝えました。そこで返ってきた「だっどお片付けなんだよ」というCちゃんの言葉にハッとしました。Cちゃんは、お片付けの時間だからお片付けしようよ、ということをお教えるようにしていたのです。私は「そっだったね、こめね。手伝ってくれてありがとう」とCちゃんに伝え、崩されて怒っていたお友だちには、「Cちゃん、お片付けのお手伝いをしてくれていたら」と話しました。それから3人は一緒に片付けを始めました。

● 板十小あいキッズ ●

先生だって人間

「しね、かす、きえろ」という言葉を聞いて、みなさんどんな気分がしますか？ これは、ある子が口癖のようにさまざまなシーンで他者に浴びせる罵声です。友だち同士はもちろん大人にも降りかかるそれは、実はどんな暴力より激しい痛みを感じる瞬間です。言葉をそのままの意味で受け取ってしまう人もいます。失礼なハンドサインとともに発せられるこの言葉は、どうもゲームや動画等からの引用らしいのですが、そうした背景を知っていても、それが自分に向けられる字面どおりに傷ついてしまいます。

(桜台第二保育園保育士 末次千里)



しっかり手をつないでお散歩に。3歳児クラスの子どもたち

私は今年初めて3歳児クラスの担任をしています。外遊び大好き、元気いっぱいの子どもたち。きつく叱ります。けれどやっぱり「はい！そんなことは二度と言いません！」とはなりません。そんなふうにいきなり変わってしまったら、それはそれで気持ち悪いですよね(苦笑)。その日も指導員に向け「おまえの

乳児へ

おんなじ おんなじ

作：多田ヒロシ
こぐま社刊 / 30頁

仲良しのお友だち、ふたの「ぶう」とうさぎの「びよん」。帽子も靴も、持っているおもちゃもおんなじ。「おんなじ」と「ちがう」に関心をもち始めた2〜3歳の子どもたちと一緒に楽しめる絵本です。

幼児へ

花さき山

作：斎藤隆介
絵：滝平二郎
岩崎書店刊 / 32頁



山菜を取りにいき山で道に迷ってしまったあや。迷い込んだ山の奥には見事な花畑が。見とれるあやの前に山ばが現れ、一つ一つの花は自分のことより他人のことを考える思いやりの心から咲くという。優しい心に充される感動のお話です。

大人も

へいわって どんなんこと？

作：浜田桂子
童心社刊 / 36頁

優しい絵とわかりやすい言葉で平和の大切さを訴えます。未来を担う子どもたちに「戦争はしてはいけない」「思いやりの心を大切に」と絵本を通して伝える一冊。平和を考え、平和の意味を問い返します。大人にもぜひ読んでいただきたい絵本。

● 北町保育園 ●

いつも「必死」な 2歳児クラスの子どもたち

「明日のことは、必死で作ってるの」——頭で三角巾をまき、エプロンをつけ、フオークでお鍋を一生懸命かき回していたAちゃんが言いました。「必死」という言葉に思わず噴き出しそうになりましたが、2歳児クラスのみんはいつも必死です。

Bちゃんが使っている人形が魅力的に見えるCちゃん。速く走ってき、「Cちゃん、早く行って、人形はあつという間にCちゃんの手の中へ。実は同じ人形が棚にあるのに、Bちゃん使っていた人形を使いたい」と納めません。

ペットボトルに絵の具を入れて作るジュース屋さんでは大人気のピンクが1個しかなくいつも取り合いになっていました。けんかしないよう、もう1本ピンク色のペットボトルを作って棚の上に置いておくと、すぐさま見つけたDちゃんが「Dちゃんのジュース！」と喜んで、他の子たちも次々と「Eちゃん



「これはわたしのジュース」絵の具で作ったジュースを持って(上)。園庭の野菜に水やりもできるよ(下)。2歳児

(北町保育園保育士 中本幸子)

戦争と私★

そして未来へ

田中 たみよ

戦後生まれだけれど

戦後4年目に生まれた私は、愛知県の田舎で祖父母、叔父、父母、兄弟5人の大家族の中で育ちました。兼業農家で食べるものには不自由を感じることなく、自然の中で伸び伸び育ったように思います。子どものころ「戦争」の話はほとんどなく、疑問に思ったり、考えることもなく過ごしていました。中学、高校の授業でも近代史は年表で出来事が知らされ終わっていました。

そして1968年保育短大に入学しました。小さい子どもたちに接したいと思い、部活「セツルメント」に入りました。この活動は地域に入り、町の子どもたちと遊び、その暮らしを知り学ぶというものでした。そのなかで私は初めて戦後の人々の生活の一部を知り、考えさせられたことを思い出します。ちょうどベトナム戦争が長引き、ベトナムの人々に振りかかる悲惨な状況がテレビや新聞、雑誌などでさかんに報道されていたころでした。胸がドキドキし、驚きと恐怖を感じていました。戦争はどうして起きるのか、人が人を殺傷し、自然や建物を破壊し焼き払う、どうしてこのようなことができるのか、考えさせられました。

戦争を知らずに育った私は、私自身を振り返ることになりました。父や母は日本の侵略戦争を体験し、敗戦後の物資のない生活も体験し、働き続けてきました。そんな体験を少しでも聞いていたらと思うこともありました。そして私は保育の仕事に着きました。子どもたちと思い切り遊び、子どもたちに近づけば近づくほど、寄り添えば寄り添うほど、子どもたちから可愛い反応があり、楽しく、喜びになりました。未熟な私は、保護者の方からも励まし助けてもらいました。そして、私も結婚して共働きになり、子育てをしながら子どもとともに成長できたように思います。

その後、近年になっても、世界ではあちこちで戦争や内紛が続いていました。そしてロシアによるウクライナ侵攻です。何のため、誰のための戦争でしょうか。心が痛む毎日です。戦争は絶対にしてはいけない、とより強く思います。安心して暮らす場が破壊され、子どもたちは遊ぶ場を失い、青年は戦場に送られ、何一つ良いことはありません。戦争は止めましょう!! あきらめず声を上げていきたいと思っています。

(板橋区在住)

子そだて奮闘記

今しかない育児の楽しさと尊厳

育児がこんなにもハードワークであることを、私は子どもが生まれて初めて知りました。夜泣きに始まり、作ってはボーボーされる離乳食期。そしてイヤイヤ期。我が家には現在年少クラスの息子がいますが、日々増していく自己主張に、余裕のない私は、早くこの時期過ぎ去れ！と願う日々でした。

あるとき、中学生のお子さんをもつ先輩ママに育児のあれこれを愚痴っていると、「大変だけど、振り返るとその時期が一番かわいよ」と先輩。謎に怒って叩いてきたりするこの時期が？

またまた冗談を。と思っていました。

そんななか、昨年娘が誕生し、息子はお兄ちゃんに。それからは息子の精神的ケアのため、基本的に息子ファースト(娘は今や一人遊びの天才に)。息子のいない間に娘を思い切り愛でて、赤ちゃんはなんて尊いのだ！と思つたのですが、あれ？ 赤ちゃんってこんなに可愛かったっけ？ となるのです。そして気がついたことは、息子ももちろん同じように尊かったはずなのに、一人目ということもあってか、それに気がついてあげる心の余裕が当時の私にはなかったんだなあとということ。そんなとき、先輩ママの言葉がふと蘇り、早く成長することはばかりを望むのではなく、もっと「今」を大切にしなければ！と思うようになりました。

最近息子の成長を感じる瞬間がありました。娘と同じくらいの赤ちゃんといるお友だちのお家に遊びに行った際、赤ちゃんには興味ないだろうなと思つていましたが、ふと息子を見るとなにやら玩具を渡し、これ欲しい？ 等と微笑みかけ、頭を撫で撫で。そんな優しい息子を見て、とても誇らしく思いました。またある日、息子が「お味噌汁が飲みたい」と急に言い出すので、作ろうとキッチンへ行くとき息子もやってきて、「僕が作ってあげる！ まずはお出汁だね」と。そんなことを教えたっけ？ と驚くと同時に、とても頼もしく思いました。

それでも時に赤ちゃんになり、食べさせて！ 着替えさせて！ 抱っこして！ と連呼していることもあり、そんなときは先輩ママの言葉を思い出して、どんな息子も思い切り可愛がってあげられるように心に余裕をもつことを忘れず、今しかない育児の楽しさと尊厳を感じていけたらなと思えます。

(桜台第二保育園3歳児クラス保護者 佐藤愛)